

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102905		
法人名	医療法人和光会		
事業所名	グループホーム ファミリーケア大黒町		
所在地	岐阜県岐阜市大黒町3丁目12番地1		
自己評価作成日	平成21年11月23日	評価結果市町村受理日	平成22年2月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170102905&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成21年12月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域のたくさんの方々に運営推進会議へ参加して頂き、グループホームのご理解を賜われるようになりました。ボランティア活動もして頂き地域に根ざしたグループホームとなっております。また担当者別家族交流会を模様し、ご家族・ご利用者・職員の絆を深めております。医療体制が整い、連携が密に取れているため安心した生活を送る事ができます。食材は生産者が表示された商品を使用しています。お米も有機米を使用しています。料理は素材を大切に味、盛り付けに自信があります。管理栄養士の指導も受けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム設立時から地域との交流の取り組みを重ね、ホームの交流ループが運営推進会議や地域の集会所として活用されている。利用者のホームでの暮らしが「豊かにおおらかに」行われるように職員からの多くの提案を求め、日々取り組んでいる。いつまでも役割を持って、地域の人々が集まる会合にも参加し、利用者の暮らしにも活気がもたらされている。職員は、担当別に利用者家族の交流会を開催する取り組みを行い、複数の家族と一緒に交流を深めてきた。併設するデイサービスの看護師が毎朝ホーム利用者の健康チェックを行い、医師との連携もよく、状態の変化に合わせ法人施設への移動も見つめた終生の支援がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念や願いの実現に向け、目標を立て達成するために、話し合いの時間をつくり意見交換や討論を行うことで実践に活かされるように取り組んでいます。「ゆたかにおおらかに」を職員合言葉とし、地域生活の継続支援と地域関係強化を取り入れています。	法人の理念を原点に、ホームでの暮らしが利用者に「豊かにおおらかに」であるよう目指し、職員間の討議から生まれるケアの向上の提案も取り入れ、実践に結びつける活動の強化に取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の会合や老人クラブの活動に施設内のふれあいセンターを開放しております。地域のお祭り、運動会、盆踊り等の行事に参加しています。	管理者は、日常から地域の人々と積極的に交流し、地域とは行事以外でもよい人間関係が築かれている。ホームの交流センターを地域に開放することで、利用者も地域の人にあたり、もてなしの役割を担う楽しみがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター開催の介護予防教室・ダンス教室・町内会の会合・老人クラブ会合等の場所を提供しています。また、その見学、参加も行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者の暮らしの紹介や施設紹介、運営状況等を資料や映像で報告し、ご意見や要望、ご助言をいただき今後のサービスに活かせるように努めています。	市・地域包括支援センター職員、自治会連合会長、自治会長、民生委員、老人クラブ、奉仕団、他クラブの委員、家族等と多くの人々が参加し、利用者の状況、ホームの様子を映像を使い説明している。地域との関係も良好になり、住民とのつながりが確実に強まっている。	運営推進会議には多方面から多くの参加があるが、参加者が多いほど、日程調整にも時間がかかり、難しい作業となるため、参加の優先順位、欠席者の意見を事前に把握する等柔軟な開催に向けた検討が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	岐阜市包括支援センター中央南開催の介護予防教室を当事業所の場所を提供しています。又その機会に管理者がグループホームの概略を説明する機会をもち行政・地域住民への啓蒙に努めています。	市とは連絡を取り、連携している。認知症サポーターキャラバンメイトとして、地域で認知症サポーターの研修を多く開催し、管理者が講師となり、認知症のケアについて話をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内での勉強会や施設外での研修により理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束とは何かをはじめ、拘束しないケアについて、法人委員会で情報を入手し、職員間で確認している。本人の話をゆったり聞いたり、散歩に出かけたり、楽しく食事する等色々工夫し、精神的なストレスの無い暮らしの組み立てに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人での研修、施設外研修に参加しています。また、施設内で虐待等がされないように注意をすると共に話し合い意見交換の場を多く設け、未然に防止に努めています。		

岐阜県 グループホーム「ファミリーケア大黒町」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての研修に参加しています。また、介護放棄等の事例で職員間の話し合いをしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人、ご家族の複数での立ち会いにて、入所時には重要事項説明書と契約書の項目を細かく読み、分からない事や不安を尋ね納得していただいた上で契約を行います。また、解約も同様に行います。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者がいつでも意見が言えるような環境と話し合いの持てる時間を設けております。顧客満足度調査を実施して分析をし改善策を協議しています。また、広報誌をご利用者家族への送付及び、近隣への回覧を行っています。	利用者・家族にいろいろな取り組みで働きかけ、どの職員にも話しかけやすい信頼関係を築いてきている。家族会や運営推進会議への出席を依頼し、意見を出す機会を作るよう工夫している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回全体ミーティングを開催している。又、業務の間に、随時話し合いの場の設け対応している。	職員は、日常的ケアから得られる利用者・家族からの話しぶりやしぐさから気づいたことをメモに残し、月1回の全体ミーティングで提案し、ケアの見直しに活かすよう努めている。管理者と職員は自由に意見が交わせる信頼関係が作られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チャレンジシートを記入し、目標を設定し、話し合い相談、アドバイスを求める機会を多く作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内及び法人内研修に参加している。その研修報告書を全職員が閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に管理者が参加し交流している。その内容を全職員に伝達し、サービスの向上に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所面談前に入所紹介先(他事業所ケアマネ)からの情報収集をしている。面談では法人運営者と管理者が本人及び家族との話し合いを実施して相互の思いを伝えて理解し関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談で知りえたニーズについて事業所内で話し合いその結果をご家族に報告理解していただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者とご家族の要望に応じられるよう、他部署への協力や助言も含めて対応しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人とはじっくり座って話す時間を設けております。また共に喜んだり哀しんだり日々の生活の中で支え合っております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とはご本人同様に話し合う機会を設けております。その中でご本人を共に理解し支えながら、ご家族と協力し合える関係づくりに努めております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族はもちろん友人等が気軽に来ていただけるようにお話し、またご本人が電話や手紙のやりとりが自由にできる環境をつくっております。	職員は、訪問された家族が気持ちよく、利用者と共に時間を過ごしてもらえるように色々と工夫することを話し合い実践している。また、知人や親類の人も尋ねてもらえるよう家族にも依頼しており、訪問がある。訪問者への感謝の気持ちは職員からも伝えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の場であると共にご利用者全員が家族のように付き合える工夫や努力を日々考え取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	職員間ではご利用者であった方の話題が常に出るため他施設に移られた場合でも顔を出したりその施設職員に近況を尋ねたりしております。ご家族へも電話や挨拶(季節の)をしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	状況に応じては個別に意見交換ができる時間を設けるなど、ご本人の思いや意向を把握することでより良い暮らしができるよう努めております。伝達できない方に関しては思いを家族・関係者よりお聞きして意向の把握に努めております。	管理者は、毎日、利用者が居室に居る時を見計らい、好みの飲み物や果物等をもって訪室し、個別に話をしたり、一緒にいる時間を持つ取り組みをしている。他の職員も居室での係わりは利用者との間に安心感を与え、信頼関係を深めることを実感している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や職歴等それまでの家族の中での役割や他のサービス利用の情報をご本人、ご家族、ケアマネージャーから聞き今までと変わらない生活が継続できるように努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中夜間一日の生活を申し送りにて一人ひとりの表情や言動、行動の状態を把握し、その状況や状態に応じた対応をしております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族からの意見や要望を聞きます。その情報を基に職員全員で話し合いご本人が楽しく安心して過ごせるように考え、見直しも含め計画作成をしております。	利用者を担当する職員は、その家族とも交流を図り意見や希望を出しやすい関係を築いている。健康や医療面では毎朝訪問する看護師やかかりつけ医との連携を図り情報を得ている。各種の情報を基に介護計画を作成し、定期・随時の見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別カルテを作成し、基本生活情報は記録している。それ以外で個人の日中、夜間の様子が一目で分かるよう申し送り用紙を作成しました。それを基に職員間で話し合いの時間を設け、ご利用者にとって現状何が必要なかを考えています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を充実し、疾患の早期発見・治療に支援しています。そのことにより入院及び状態低下の防止に繋がっています。緊急時はご家族の許可の下、搬送手配等の支援を実施しています。		

岐阜県 グループホーム「ファミリーケア大黒町」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会、民生委員、警察、消防等と協力しながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	経営母体が病院であるため、主に往診受診をしていますが、ご本人、ご家族の希望がある場合にはかかりつけ医を、病状に応じた医療が受けられるよう支援しております。	母体法人が医療機関であり、法人医師がかかりつけ医となり、月1回の往診がある。利用者が他に特定のかかりつけ医を持っている場合は、希望に応えられる医療が受けられるよう支援している。身体状況により法人の他施設での支援も含めたサポートがあるため、利用者や家族の安心感がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中は併設デイサービスに看護師が在駐しています。また、母体病院の看護師ともどんな小さな小さなことでも相談できる体制ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご利用者への心のケアと同時に、病院との情報交換を常に行っています。また、日々の健康管理や病状の把握に努め、早期対応ができるよう努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	担当医師や看護師、ご本人、ご家族とは常に話し合いの場を設け、相談や助言を受けその上で職員全員がその方針を共有しています。	法人併設のデイサービスに看護師がおり、毎朝健康を確認している。看取りについては法人の「看取りの指針」を入居時に説明している。重度化したときは、本人・家族が不安を招かないよう医師と充分話し合い、方針を決め同意を取っている。方針は、職員間で把握し、本人とその家族をも支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急、事故、病状別マニュアルを基に訓練等を行い急変や事故防止に取り組んでいます。夜間想定訓練も実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力の下、避難訓練・避難訓練の確保・消火訓練等の定期訓練を実施しています。	年2回の避難と消防の訓練を行い、初期消火や放水、避難誘導を実施している。また、地域で行われる秋の防災訓練にも利用者・職員が参加しており、日常から地域の消防団との連携も図るよう取り組んでいる。	

岐阜県 グループホーム「ファミリーケア大黒町」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員で勉強会を開きプライバシーについての認識及び意識向上に努めています。	利用者の居室に入る際には「失礼します」と声をかけるなど、日常的にその人の尊厳を支えることがプライバシーを守ることになると、心や感情を大切にする支援を実践している。	地域交流センターには多くの人を招き、交流が盛んであるが、訪問者がある際には無断での撮影もある。利用者や家族、職員の了解はあるが、訪問者にも撮影やその映像を利用してよいかの許可を取ることを検討されたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自由に思いや行動が出せるよう環境づくりや場の提供をしています。また状況に応じた対応をすることで、ご利用者が自己決定、納得できるよう支援しています。(食事のメニューの決定・外食の希望による2・3名による外出等)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	暮らしの中に必要以上の決まり事はなく、絶えずご利用者ひとり一人が自由でその人らしい暮らしを継続、実現できるように共に支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の機会に化粧品・衣服の選択購入をお一人でしていただき、オシャレへの関心を継続していただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査することで、今食べたいもの、好みを知ることに心かけ、また食材選びや下準備など一緒にできる機会をつくっております。同じ空間で職員といっしょに食事をいただきます。	食べたいものを尋ね、野菜は法人が管理する畑の無農薬野菜を使い、バランスを考えた料理を作っている。来客があった場合、時間帯に合わせておやつや食事を、交流ルームで皆と一緒にテーブルを囲み、楽しい時間が作られている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス、摂取量、水分摂取量はご利用者の体型、状態、好みに合わせて考え支援しています。食事摂取量を記入してご本人の状況を職員で共有しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがい、歯磨きを日課として、必ず声かけをしています。必要に応じて、お手伝いし、清潔が保てるようにしております。		

岐阜県 グループホーム「ファミリーケア大黒町」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを知ることで、できる限り紙パンツの使用を避け、こまめにトイレ案内を行うことで、爽やかに気持ちよく過ごせるよう試行錯誤しています。失敗しても大丈夫という環境をつくっております。	個別の排尿間隔を把握し、トイレに誘導している。紙パンツであったのが布パンツで過ごせるようになっていたり、パットの交換がうまくできるようになっていたりして、「もったいないからね」、「汚れなかったね」の言葉が出ると利用者からも笑顔が出ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、おやつ等の食材には、繊維の多い食材や牛乳、ヨーグルトなどの乳製品を多く取り入れるよう工夫しています。又、散歩や軽体操を取り入れております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者のアンケートを実施しながら、季節や天気、温度に合わせて入浴されています。また、時間や回数も決めておりません。	基本は週3回の入浴としているが、風呂は毎日入れるよう準備しており、午前あるいは午後との随時の希望にも対応している。汗をかいたり、汚れたりしたときは1日に2回入浴することにもなるが、支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活リズムやその日の状況、状態により、居室の室温管理をしたり季節に応じた服装、更衣を行うことで休息、安眠ができるようにしております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病歴等を含め薬内容を理解し事務所預かりとして、名前・日付を確認してご本人に手渡し服薬確認をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	あなたにしかできないことや、かつて自宅でされていた(仕事や家事)ことが継続、実現できるようお手伝いさせていただいております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に近隣への散歩を実施しています。各個人の希望に応じた外出を多く取り入れています。	外出先で車椅子が必要であることにもきちんと準備をし、出かけている。散歩は、出かける前に行き先を決めていくが、距離が伸びそうな場合は、付き添う職員も配慮し、安全に気をつけている。食材の買い物に共に出かけ、帰りに喫茶店によることもある。	

岐阜県 グループホーム「ファミリーケア大黒町」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりお金を預かり、事業所で管理している方でもご本人が希望の物を購入する際には、ご自身が支払いできるようにしております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	時間問わず、自由に電話(子機使用)や手紙のやり取りができるように支援しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節、天気、気温に合わせて、ご本人の希望にあわせて気持ちよく過ごせるように対応しております。コーヒータイムにはクラシック、楽しみたいときはカラオケ、食は視覚で季節感をとりいれ五感を通じて居心地のよい空間づくりを演出しています。	リビングは椅子の配置を検討し、利用者も職員も動きやすいものになっている。共有空間は清潔に掃除されており、風呂やトイレも混乱が起きないように整備されている。配慮の要る薬剤は、日常的に職員の誰もが管理できるように工夫し、目に付かない場所に保管されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うもの同士と一緒に過ごせる時間、場所や、居室以外にもお一人で過ごせる場所を設けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、使い慣れた物や好みの物を置いてもらうように説明しております。また、ご本人が落ち着いて暮らせる工夫を、本人、家族と話し合っております。	ベッドはホーム側で準備している。入居時に、家族には利用者が大切にしていたものや馴染みの品をホームに持って来てもらえるよう充分説明し、利用者が安心して部屋に馴染んで行けるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペース、居室の環境設備を行い、安全な環境づくりに努めています。		